

# 早稲田大学 125 周年記念協賛事業を起爆剤とした、DNO を核とする 「商店街振興・地域再生・まちおこしコラボレーション事業」の企画提案

H19年1月  
橋本武司

## 1. 企画の趣旨

早稲田大学創立 125 周年記念事業として、区と DNO、大学、学生、商店街が一体となり IT ネットワークやツールを駆使して動画情報の配信、活用をする一大ネットワークをつくり上げる。これら 5 者が情報を共有し、情報の集積と活用効果を発揮できる仕組みとする。なお、このプロジェクトは 125 周年記念事業の終了後も団塊 NPO が主体となり、早稲田の街を拠点に地域貢献性のある NPO 事業として続け、他の地区へのモデル提供を行うことが望ましい。

## 2. 登場人物

新宿区：国との窓口となり、申請及び委託事業実施の主体となる。

DNO：早稲田での企画運営の核となる。

大学：大学との協賛事業とし、大学のシステムの内、外部に出せる情報インフラをできるだけオープンに公開していただく。

学生：125 周年事業として学生の参加協力を期待する。

商店街：早稲田の街の商店街連合会との協賛事業とする。

## 3. ネットワークのしくみ

- 1) 動画配信ネットワークのしくみは橋本が関与する㈱POPTV の協力を求め、そのサービスのしくみをベースに構築する。
- 2) 設置画面はタッチパネル機能付き 40 インチの大型画面とし、街の店舗や大学の要所(屋内)に 10～20 台程度設置する。
- 3) 配信サーバーは DNO が管理責任を負い、POPTV 社の支援の下に DNO と学生主体で運用する。
- 4) 125 周年記念事業の終了後も 4 者協業の下に、早稲田の街の活性化を図るツールとして継続運用する仕掛けを目指す。

## 4. 推進予定スケジュール

- 1 月：基本方針及びプロジェクト化決定、基本プランの検討開始
- 2 月：本格詳細プランの策定開始
- 3 月：関係者への根回しと協力協賛体制の確立
- 4 月：モニター画面の設置開始、国の委託事業に申請
- 5 月：モニター画面のトライアル運用開始（学生の協力も得て）  
委託事業採択決定(国)、Go なら準備作業を本格化
- 6 月：本格運用開始、サービス提供開始、システムは逐次追加整備
- 10：125 周年記念イベント本番対応
- 11：継続フォロー・サービスへの移行

## 4. コンテンツ(例、今後基本シナリオとコンテンツ・イメージを早急に検討)

- ・早稲田 125 周年仮想商店街のイメージを演出
- ・イベント情報の提供
- ・団塊バンド開催店舗の案内
- ・125 周年イベント情報の提供
- ・WINE（早稲田大学図書館情報）
- ・大学講座情報の提供

その他大学、学生、商店街から必要なニーズをヒアリングする。

## 5. 資金の調達と手当て：総額 4 千万程度は必要か

### 1) 国の新規委託事業の活用

企画・管轄：総務省・地域通信振興課

事業名称：ICT 利活用モデル構築事業（国として初の地域 ICT 振興事業）

事業形態：国が市区町村経由で募集し、採択事業はその実施を委託、市区町村は地域の協力企業や NPO に事業の再委託を行う

事業規模：総額 1.8 億、一件当たり数千万～1 億以内

初年度のモデルシステムとしくみ・体制の構築費用は原則国が全額を支出、次年度以降は自前資金で継続できること。

公募開始：19 年 4 月早々に公募し、5 / 下旬に採否を決定。

事業実施 : 19/6月~20年/3月

## 2) 区の商店街向け助成金の活用

- ・ 区の助成金：商店街活性化助成金・補助金  
商店街で申請（30~200万程度）
- ・ 他に都の商店街振興助成金(2千万、所要資金の2分の1を助成)  
6月公募開始、9月に採否決定、事業期間は事業開始後1年。  
国の委託事業に次いで有望だが、125周年のタイミングに合わず、見送りか。

## 3) 企業協賛金の確保と活用(目標：2千万)

早稲田大学125周年事業として早大人脈に基づく企業をスポンサーとして募集し、画面に企業の広告を出して広告協賛金を拠出いただく。

## 6. 話題性

- ・ 2007年は団塊の2007年問題本番の年であるから、マスコミの関心が集中する。
- ・ 2007年は早稲田大学創立125年イベントであるから大学関係者の協力も得やすい。
- ・ IT業界が大画面を生活に結びつける分野に集中してくる状況がある。
- ・ 大学が全入時代を迎え生き残りを模索している。
- ・ 早稲田の街が活性化を求めている。
- ・ 学生が活躍の場を求めている。
- ・ 団塊サラリーマンが活躍の場を求めている。

## 7. 結論：

生き残りを模索する大学と

大学外と共生したい学生と

活性化を目指す商店街と

DNOを核として結集した会社から離れた団塊サラリーマンと

が

早稲田の地

で

2007年という分岐点

に

「大学と学生と街と街の人」のコラボレーションを推進してゆくネットワークを組むことが時代を動かす起爆剤となるので、DNO-NPOとして関係者の賛同と資金手当てのメドが付けば当NPOの発展のためにも積極推進の価値大と考える。

## 8. 課題

### 1) 資金手当ての可否と見切り発車のリスク負担

当イベントは125周年該当月の半年ぐらい前から起動することが望ましいが、委託事業の採否決定は順調に行って5月末なので、これに先行する場合に先行投資リスクを誰がそのように負うか？

POPTV社のポジションは、収益事業ではなく実費回収ベースの協力事業と位置づけており、その先行リスクや、資金の負担は負いかねる。

(数台の画面先行提供(オフライン運用)のみのリスク負担の範囲なら協力は可か?)

### 2) 関係者の賛同と協力の取り付け(DNO、ゼミ、区、大学、商店街、学生、)

### 3) プランの作成と申請、推進体制と役割分担

特に一過性ではなく、継続性をいかに持たせるかの工夫が必要。

注) 考えられる街の商店街の協力店舗：

02カフェ(学生起業家の経営するカフェ)

3つのオレンジへの恋(サラリーマン退職者の起業したレストラン)

ネットアットブース(サラリーマン退職者の起業したネットカフェ)

さんびん食堂(サラリーマン退職者の起業した牛丼屋)

資格試験コンサルタント(サラリーマン退職者の起業した資格の店)

PCビレッジ

(以下協力依頼できそうな店舗例)

高田牧舎

三和クリーニング

キッチンミキ

レストランときわなど